

2021/3/29

# 点検・評価報告書

2021(令和3)年度

公益財団法人大学基準協会 大学評価

新潟青陵大学

看護学部

## 序章

本報告は、新潟青陵大学 2015 年度～2021 年度までの長・中期目標における看護学部の「理念・目的」、「教育課程・学習成果」、「学生の受入れ」、「教員・教員組織」に関する報告である。

新潟青陵大学看護学部は、その建学の精神に立脚した社会の切実な要請に応えるべく、保健・看護・福祉の分野で地域に貢献できる高度専門職業人の育成を目指して、2000 年 4 月に看護福祉心理学部として発足した。地域社会におけるリーダーの役割を担う総合的な視野と高い専門的知識を持ったエキスパートが求められ、このような社会的需要に対応するために、より「高度」な専門的職業人養成の教育型大学として地域における「知の拠点」となるべく 2015 年に看護学部と福祉心理学部に学部を分離し、現在に至っている。

少子高齢社会にあるわが国において、地域医療構想に基づく医療提供体制の構築と地域包括ケアシステムの構築により地域におけるヘルスプロモーションや予防も含め、その役割や活動場所の多様化により、看護者には多様な場面での人々の身体状況を観察・判断し、状況に応じた適切な対応ができる看護実践能力が求められている。これらを背景に 2017 年 10 月に「看護教育モデル・コア・カリキュラム～学士課程においてコアとなる看護実践能力の修得を目指した学修目標～」が文部科学省から出された。看護学部では、この看護教育モデル・コア・カリキュラムをうけ、社会の求める看護の人材育成をさらに進めるために、学部の教育目的、及び既存の 3p の再確認を行い、2019 年入学生からカリキュラム改正を行っている。

看護学部が率先して遂行する自己点検・評価は、現状への厳しい自己点検・評価を自らに課し、改善・改革に努める事でもあり、ひいては大学全体の堅実な発展の重要な契機として位置づけられる。

## 基準1 理念・目的

### (1) 現状説明

①：大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

評価の視点1：学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容

評価の視点2：大学の理念・目的、学部・研究科の関連性

本学は、学校法人新潟青陵学園建学の精神である「日進の学理を応用し、勉めて現今の社会に対応すべき実学を教授する」に則して「実学教育」を基調とし、大学の理念「こころの豊かな看護と福祉の実践」を目指し、「人間性に富んだ看護・福祉の全人的教育」という大学の目的を掲げている。また、教育の目的は、「生命尊厳・人間尊重の理念に基づき、国民の福祉と健康を支え、全人的な視点からこれを保証するという社会の要請に応えるとともに、クオリティ・オブ・ライフ（QOL）の向上に寄与する人材を育成する」として（根拠資料 1-1、1-2）。

看護学部の教育目的は、「『生命の尊厳・人間尊重』の理念を基盤とする高い倫理性と豊かな人間性を培い、看護の専門的知識と技術を教授することにより、看護専門職として地域・国際社会に貢献することのできる人材を育成することである」を設定している（根拠資料 1-3、1-2）。この教育目的は、本学園の建学の精神「実学教育」、及び大学の理念・目的、及び大学の教育の目的と関連し、教育上の理念「生命尊厳・人間尊重」を基軸とし、地域及び国際社会における保健医療及び福祉分野における看護専門職としての貢献を重視した特徴ある看護学部の使命を定めている。看護学部の教育目的達成のために以下の7つの教育目標を掲げている（根拠資料 1-2）。

1. 人間・生命の尊厳を守る意識を培い、自己の資質の向上に努める能力を養う。
2. 他者を尊重し、自己をも尊重する建設的な人間関係を形成する能力を養う。
3. 看護に必要な知識・技術を学習することによって、よりよい看護実践ができる基礎的能力を養う。
4. 看護の諸現象について、論理的な思考のもとに適切な情報の収集、科学的な分析、倫理的な判断を用いて、有効な対応を考察できる能力を養う。
5. 専門的知識・技術を用いて、科学的な根拠に基づく安全・安楽な援助を提供できる能力を養う。
6. 社会における看護が担うべき役割を認識し、保健医療福祉領域の専門職及び地域の人々との協同・連携のもとに、看護の発展に寄与する能力を養う。
7. 国際的な視野をもち、創造的な思考を深め、専門職業人として社会に貢献できる能力を養う。

②：大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

評価の視点1：学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示

評価の視点2：教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、学部・研究科の目的等の周知及び公表

看護学部で設定する人材育成については、大学の理念「こころの豊かな看護と福祉の実践」と目的「人間性に富んだ看護・福祉の全人的教育」のもと、7つの「学位授与の方針：ディプロマ・ポリシー」を定めている。この「学位授与の方針：ディプロマ・ポリシー」は学生便覧と大学ウェブサイトに掲載している（根拠資料1-2、1-3）

看護学部の教育目的・目標については、新入学生と大学構成員（教職員全体）へ毎年配布される学生便覧に大学の理念・目的とともに掲載されている（根拠資料1-2）。学部の教育目的・目標について、新入学生と新たに着任した教員へは、4月の大学全体新入生オリエンテーションの履修ガイダンス指導の時、学生便覧を使用してカリキュラムの説明とともに、また、2年次以上の学生へは、当該年次に履修する科目と関連させて繰り返し説明し周知を図っている。また、本学ウェブサイトに大学の理念・目的、看護学部の教育目的・目標を掲載し、教職員、学生はもとより広く社会一般への周知を図っている（根拠資料1-4【ウェブ】）。

③：大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。

評価の視点1：将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策の設定  
・認証評価の結果等を踏まえた中・長期の計画等の策定

本学は、大学全体の2015-2021年度、中・長期計画、「中期活動目標」の基本項目I「組織・運営基盤」の「大学のたゆまざる進展を図る組織・運営基盤の構築」として、中期活動目標「2. 学士・修士課程充実と、学部・大学院（修士・博士課程）の新設・拡充」をおいている。看護学部は、2015年度から、それまでの看護福祉心理学部から看護学部と福祉心理学部に改組し、現在に至っている。2018年度入学生から学部定員を85人から90人に増加、2019年度入学生から2017年10月の“看護学教育モデル・コア・カリキュラム～「学士課程においてコアとなる看護実践能力」の修得を目指した学修目標～（文部科学省）”に即したカリキュラム改革を行い、「全人的視野に立ったヒューマンケアを実践できる看護者の育成」に日々努力している。

また、看護学部における教育目的・目標を達成するために、各委員会活動における看護学部に関するPDCAサイクルを1年ごとに実施している。そのPDCAについては、学部

運営会議が確認し、必要時には再評価、修正加筆の要請、そして学部教授会メンバーへの周知を図り、加えて、大学全体の学長諮問委員会、評議会所管の委員会、各委員会・センター所管の委員会等と大学全体の連携・協働に取り組んでいる（根拠資料 1-5、1-6）。

## （2）長所・特色

本学は 2000 年 4 月開学以来、1400 名以上の看護職を輩出してきた。2015 年度以降、看護学部看護学科卒業時において、看護師と保健師の両方の資格取得者は 5～6 割、助産師は 2 割弱（15 名定員枠）、養護教諭一種免許状取得者は 2 割前後の人材が社会に巣立ち、保健医療、及び学校保健関連機関への就職率 100%を維持している。そのうち県内就職者は 70～80%を占め、特に養護教諭の 85%以上は県内教員採用試験に合格している。このように地元地域での活躍実践の実績をあげている。（根拠資料 1-7）。

2015 年から 2020 年の 6 年間に於いて実施された看護師・保健師・助産師の国家試験の実績において、看護師国家試験の合格率は 100.0%が 2 回、残り 4 回も 97%以上の合格率で常に全国平均より高い。保健師国家試験の合格率は 100.0%が 2 回、2018 年が 80.0%と全国平均（81.4%）に及ばなかったが、他 3 回は全国平均を上回っている。助産師国家試験の合格率は 2017 年の 93.3%以外は 100.0%となっている（根拠資料 1-8）。これらの点からも 2015 年の学部改組以降、大学の理念・目的、及び学部の教育目的・目標は適切であり有効に機能していることを示している。

## （3）問題点

18 歳人口の減少、県内における看護大学と看護専門学校の増設により、入学者獲得における新たな問題が浮上してきている。さらに、地域医療構想に基づく医療提供体制と地域包括ケアシステムの構築により、多様な場における人々に必要な看護実践力が求められている。これらの社会の変遷に対応して、継続的に本学の理念・目的、教育上の理念・目的とともに看護学部の教育目的・目標を広報し、看護職として必要な能力を備えた質の高い人材の確保と育成への努力が必要である。

## （4）全体のまとめ

大学の理念・目的、及び学部の教育上の目的に基づき、社会に求められている看護の人材が育成されていること、大学の理念・目的、及び学部の教育上の目的に向けた取り組みは、現時点で有効に機能し、適切である。

#### 基準4 教育課程・学習成果

##### (1) 現状説明

##### ①：授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

評価の視点1：課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針の適切な設定（授与する学位ごと）及び公表

看護学部では、本学の教育上の理念である「生命尊厳・人間尊重」に基づいて「ケアのこころ（自らケアができケアされる側の気持を理解する）を持った人材の育成」を目指しており、以下の要件を満たした学生の卒業を認定し学位を授与するものとしている。具体的には、以下の1～7を修得すべき能力として定め、その達成のための要件として所定の単位を修得することとしている。

これらは、誰もが参照できる学生便覧や大学ウェブサイトに掲載している（根拠資料 1-2、1-4【ウェブ】）。

##### 表 看護学部のディプロマ・ポリシー

1. 幅広い教養と豊かな人間性、高い倫理観をもち、生命の尊厳を重んじた看護ができる。
2. 看護を必要としている人の心に寄り添い、一人ひとりの意思と独自性を尊重できる。
3. 専門的知識と技術を修得し、エビデンスに基づいた基礎的看護を実践する能力を身に付けている。
4. 看護・医療の進歩と変化に適切に対応できる能力を身に付けている。
5. 専門職者として主体的に学習する能力を身に付けている。
6. 保健・医療・福祉・教育等関連領域と連携・協働し、地域の人々の健康課題に取り組むことができる。
7. 多様な文化と相互の違いを理解し、国際的感覚を高め、人々の健康課題を考えることができる。

##### ②：授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

評価の視点1：下記内容を備えた教育課程の編成・実施方針の設定（授与する学位ごと）及び公表

- ・教育課程の体系、教育内容
- ・教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等

評価の視点2：教育課程の編成・実施方針と学位授与方針との適切な連関性

本学は、「こころの豊かな看護と福祉の実践」を理念に、「人間性に富んだ看護・福祉の全人的教育」を目的としている。看護学部と福祉心理学部の2学部間における連携の下に教育・研究を行う意図で教育課程の編成方針は共通とし、そのうえで看護学部独自の教育課程の実施方針を定めている（根拠資料1-2）。

具体的には、2学部に通ずる大学全体にかかわるカリキュラムとして、全学共通科目を設置するとともに、各学部・各学科に専門科目を設置し、それらを体系化するとともに、他学部・他学科履修科目を可能にし、関連周辺領域と学際領域の学びを保障している。さらには、「導入教育科目」を設置して学習方法や技能の修得と基礎的な学力の育成を目指すとともに、「地域連携とボランティア」、「就業力育成科目」では、地域社会における実践的実習のなかで、学士課程に求められる課題発見能力や問題解決能力等の育成を目指している。

ディプロマ・ポリシーとの整合性から育成すべき看護専門職者の資質・能力を学生が習得できるよう、下記のとおり教育課程を編成・実施する。これらは、学生便覧及び大学ウェブサイトにも明示している（根拠資料1-2、1-4【ウェブ】）。

表 看護学部のカリキュラム・ポリシー（根拠資料1-2）

1. 全学共通科目として「基幹科目」「外国語教育と国際交流」「地域連携とボランティア」等を配置し、専門科目は「基礎専門科目」と「看護学」により構成する。加えて「教育関連科目」「他学部聴講科目」を準備する。
2. 学ぶ構えとスキルを身に付けるための「導入教育科目」を初年次に置き、強要科目と専門科目を関連して学べるように全学年に配置したうえで、学びの集大成として「看護研究」を配置する。
3. 看護師・保健師・助産師・養護教諭など、自らの将来像に動機づけられた学習ができるよう、初年次からキャリア教育を開始したうえで、上位学年にそれらの専門性を追究する選択科目を配置する。
4. 1年次・2年次は、看護の基礎力を養う科目を配置する。なかでも実践力育成を重視し、看護専門科目において領域ごとに実践論という科目を設ける。
5. 3年次・4年次は、様々な健康状態にある人を看護する実習を配置する。また、地域包括ケアシステムに対応できるよう、病院外における看護活動を選択実習として準備する。
6. 教育方法として、主体性とコミュニケーション能力を育成するために、授業内での協同学習、進路選択や看護研究に関する異学年交流、地域活動での協働学習といった、多様で互恵的な学びの機会を設ける。
7. 評価は学習目標の到達度を厳正に適用し、専門職として必要な能力を基準に絶対評価する。

③：教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

評価の視点1：各学部・研究科において適切に教育課程を編成するための措置

- ・教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性
- ・教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性への配慮
- ・単位制度の趣旨に沿った単位の設定
- ・個々の授業科目の内容及び方法
- ・授業科目の位置づけ（必修、選択等）
- ・各学位課程にふさわしい教育内容の設定
- ・初年次教育、高大接続への配慮（【学士】【学専】）
- ・教養教育と専門教育の適切な配置（【学士】）
- ・実践的・応用的な能力、職業倫理の涵養への配慮、専門の職業を取り巻く状況への配慮、教養教育・基礎的な教育・職業に係る教育科目等の適切な配置（基礎科目（一般・基礎科目）、職業専門科目、展開科目、総合科目）等（【学専】）
- ・コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等（【修士】【博士】）
- ・理論教育と実務教育の適切な配置等（【院専】）
- ・教育課程の編成における全学内部質保証推進組織等の関わり

評価の視点2：学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育の適切な実施

## 1. 教育課程の編成

教育課程は、本学の教育目標、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を受けて作成された看護学部のカリキュラム・ポリシーに基づいており、授業科目は、本学の教育課程の編成方針に即して、全学共通科目・専門科目にて構成し体系的な教育課程を編成している。詳細については、次のとおりである（根拠資料 1-2）。

### 1) 全学共通科目

全学共通科目は、対象者の健康増進と健康問題解決への実践的能力を身につける基盤をつくるために、看護学や医学にとどまらず、自然科学、人文科学、社会科学等の学問を学ぶ。「導入教育科目」「教養基礎科目」「IT科目」「地域連携とボランティア科目」「複合・学際科目」「外国語と国際交流科目」「健康とスポーツ科目」からなり、全学部、学科に開講する科目群である。学問の基礎として下位学年の開講が多いが、科目によっては専門の学びとの相乗効果を期待して上位学年にも開講している。

「導入教育科目」は、大学生として必要とされるソーシャルスキルとスタディスキルを学ぶ科目群であり、学修の戸惑いや困難を軽減したうえで大学での学修方法を学べる科目を配置している。1年次前期に配置された「フレッシュマンセミナー」「スタディスキルI」は、全学生必修科目である。また、大学入学時のプレイスメントテストによって、基



礎学力が不足していると判定された学生向けに、国語・数学・英語・IT(Information Technology, 情報通信技術)の基礎力を補強する科目が自由科目として配置されている。

「地域連携とボランティア」は、地域、あるいは他職種との連携や協働が重要であることから地域連携とボランティアの基礎知識を学修し、実習も配置してある。「ボランティア実習Ⅰ・Ⅱ」については、本学のボランティアセンターと連携を図り、各学生のボランティア活動履歴をもとに、その時間数に応じて単位を認定している。

「複合・学際領域」には、両学部が専門性を背景にしながら共に学び合うことを意図した科目を配置している。また、地域を深く知るための「新潟学」は特徴ある科目となっている。

## 2) 専門科目

入学時から段階的に専門科目が学習できるよう教育課程を組んでいる。専門科目は、看護学及び看護実践の基礎となる学修を行う領域であり、基礎専門科目、基礎看護学、成人看護学、老年看護学、母子看護学、精神看護学、公衆衛生看護学、臨地実習、助産学関連科目、看護の総合の10区分となっている。なお、2017年に策定された看護教育モデル・コア・カリキュラムをふまえて2019年度にカリキュラム改正を行った。

基礎専門科目は、他の専門領域すべての基盤となるものと位置づけ、1年次生から3年次生に配置し、人間がどのような存在であるかを人体の構造、機能・発育、性などの多方向から基礎的な知識を学ぶ。また、人間を取り囲む環境の影響による健康破綻と人体の変化を学び、健康破綻の予防について学ぶ。さらに、地域社会における保健、医療、福祉の連携・協働の推進を理解し、人々を取り巻く保健、医療、福祉のシステムについて学ぶ。

基礎看護学の区分は、看護学の基盤となる科目が含まれ「看護学概論」「基礎看護実践論Ⅰ・Ⅱ」を1年次、「基礎看護実践論Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ」「家族看護学」は2年次に開講する。「看護論演習」は臨地実習経験後の3年次後期となっており、実践経験をふまえて看護を理解できるように配置した。

成人看護学、老年看護学、母子看護学、精神看護学の区分は、それぞれ概論、看護学、実践論から成っており、1年次から2年次にかけて開講している。

公衆衛生看護学の区分は、看護の対象を拡大し、病院から地域、在宅医療と看護、個から集団、施策化という保健師に求められている役割に対応できる能力の基礎を身につけることを目的としている。必修科目の概論を2年次前期に配置し、2年次後期から4年次にかけて各種の専門科目を積み重ねていく配置になっている。

臨地実習は、1年次から4年次まで配置している。看護活動を理解するための基礎実習から、基礎的な看護実践能力を養成するための各論の臨地実習を経て、希望する資格に合わせた実習へと順序性のある配置になっている。また、実習の場は病院以外にも開拓し地域包括ケアシステムに対応できるよう工夫している。

看護の総合は、各領域を統合し看護の知識・技術をより発展させた、チーム医療や他職種との協働、看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップ、マネジメントなど、看護を広い視野から捉えた応用的な学修と、実践力強化を目的としている。地域包括ケア時代への対応を考え、2019年度から「看護ケアマネジメント論」も新設した。また、自己の看護体験を将来の看護実践に反映させるために必要な基礎的研究能力の育成を目的として、

3 年次後期に基本的な研究方法や研究倫理を学ぶ「看護研究Ⅰ」を配置し、それを基盤として4年次に配置した「看護研究Ⅱ」で看護研究を完成させる。

### 3) 教職関連科目

養護教諭一種免許状に関わる教職関連科目を、1年次から4年次に13科目配置している。

### 4) 他学部聴講科目

福祉心理学部における専門科目を共に学ぶことができる16科目を準備している。

以上の教育課程の編成方針及び教育課程について、教学改革推進会議によって検討されている。

## 2. 学生の社会的及び職業的自立を促すために必要な能力を育成する教育

本学は実学教育を旨とし、学生の社会的及び職業的自立を促すために必要な能力を育成する教育を行っている。看護専門職の養成という使命において社会的・職業的自立に向けた態度教育も重視し、実習要項を用いて実習に臨む心構えや態度、対象者との接し方、守秘義務や学ぶ者としての礼節、服装や身だしなみ等について指導している(根拠資料4-1)。

また、3年次から4年次後期まで続く国家試験対策講座や、4年次には、キャリアセンターの専門スタッフによる就職のために必要な相談対応、書類作成や面接演習を取り入れた就職サポートなどを行っている。さらに、保健師や養護教諭採用試験に向けた特別対策講座の実施や、看護師、保健師、助産師、養護教諭、それぞれの就職先に合わせたプログラムで、安心して社会人としての第一歩を踏み出せるように、卒業前集中演習を実施し、同時に社会人としてのマナーや心構えも学ぶ機会としている(根拠資料4-2、4-3)。

さらに、4年次生後期には、選択科目で「看護統合実習」を配置している。就職前実習として位置づけており、看護チームとともに患者の看護にあたり、ケアのマネジメント能力の習得や医療安全対策の実際を学ぶとともに、主体的に業務に取り組む態度を養うことを目的としている。

## ④：学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

評価の視点1：各学部・研究科において授業内外の学生の学習を活性化し効果的に教育を行うための措置

- ・各学位課程の特性に応じた単位の実質化を促すための措置(1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定等)
- ・シラバスの内容(授業の目的、到達目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法及び基準等の明示)及び実施(授業内容とシラバスとの整合性の確保等)
- ・学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法

- ・適切な履修指導の実施
- ・臨地実務実習、その他必要な授業形態、方法の導入と実施(【学専】)
- ・授業形態に配慮した1授業あたりの学生数(【学士】【学専】)  
(40名以下の設定と運用【学専】)
- ・研究指導計画(研究指導の内容及び方法、年間スケジュール)の明示とそれに基づく研究指導の実施(【修士】【博士】)
- ・実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導の実施(【院専】)
- ・各学部・研究科における教育の実施にあたっての全学内部質保証推進組織等の関わり

本学では、単位の実質化を図るための措置としてCAP制を取り入れており、学期ごとの成績(GPA)に応じて履修可能単位が決められている(根拠資料 1-2)。また看護学部においては、予定通りの単位修得ができなかった学生に対し、履修変更や学習方法の指導を行う体制が整備されている。具体的には臨地実習科目を履修するための必修単位の要件を設けており、その条件を満たすことが困難になった学生に対して、アドバイザーと教学担当者(教務委員)両者から指導が受けられるようにしている(根拠資料 4-4)。2019年度に卒業した88人のうち、単位修得状況により希望資格を諦めた学生は6人(内訳:看護師+保健師から看護師のみになった学生が5人、看護師+助産師予定から看護師のみになった学生が1人)であり、82人が希望する資格取得要件を整えることができている(根拠資料 4-5)。なお、これ以外に助産選択選抜試験の不合格により助産師資格を諦めた学生は5人いたが、そのうち4人は代わりに保健師国家試験受験資格を取得できている。

また、シラバスについては、必要な内容が記載されるように、教員向けに説明書を提示(根拠資料 4-6、4-7)したうえで担当者による監査・修正依頼(根拠資料 4-8、4-9)をすることで、学生が主体的に科目を選択・履修できるように整備している。その結果、授業アンケートで看護学科全学年の93.8%の「授業内容がシラバスにあった」と回答している。(根拠資料 4-10)。

授業は、学生が主体的に学ぶ力や考える力、自ら考えを述べる力、人の考えを聞く力などを育成し、広い視野に立って提示された課題を考えることができるように、グループ学習や課題学習を積極的に取り入れており、「ディスカッションの機会を取り入れた授業がよくあった・ある程度あった」と回答した学生は全学年通して80%以上であった(根拠資料 4-11)。

臨地実習を重視し手厚い教員配置(学生5-6人に1人の教員)を敷いている(根拠資料 4-12)。実習調整委員会が中心となり実習担当教員のFD研修会も継続的に行われており(根拠資料 4-13)、臨地において主体的な学びを導く教育方法を共通理解している。また、学生の自律的な学びの集積を後押しするために「自己の実習目標・課題シート」と「看護技術修得レベルチェックリスト」を準備し、ポートフォリオ的に自らの学修軌跡を記しながら、それについてオリエンテーションや評価面接で対話する機会を設けている。

全学的組織であるFD委員会は研修会を開催することや授業見学・授業アンケートの企画によって支援している。コロナ感染症予防のための遠隔授業が必要になった際には、そ

のスキルについて研修を行った（根拠資料 4-26）。

⑤：成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

評価の視点 1：成績評価及び単位認定を適切に行うための措置

- ・単位制度の趣旨に基づく単位認定
- ・既修得単位等の適切な認定
- ・実践的な能力を修得している者に対する単位の適切な認定（【学専】）
- ・成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 ・卒業・修了要件の明示
- ・成績評価及び単位認定に関わる全学的なルールの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わり

評価の視点 2：学位授与を適切に行うための措置

- ・学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示・公表
- ・学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するための措置
- ・学位授与に係る責任体制及び手続の明示
- ・適切な学位授与
- ・学位授与に関わる全学的なルールの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わり

成績評価の方法及び単位認定の基準については、前期・後期オリエンテーション時に教務委員会が学生便覧を用いて説明している。また、各科目の成績評価の方法は、シラバスの評価方法欄に提示している（根拠資料 4-6）。看護専門科目は複数教員で担当している看護専門科目が多く、評価基準について相談できている。教員－学生双方が単位修得の条件について理解していることが単位認定の適切さを支えている。

臨地実習は、成績評価方法を実習要項に提示している（根拠資料 4-1）。臨地実習は、その性質上、常に同一条件を揃えることはできず、受持ち患者の状況等に左右されることも多い。担当する教員により評価の差異がないように、できるだけ評価表を詳細に分類するとともに、専門領域ごとに実習に携わった教員が協議し、実習における対象や状況の把握、実践計画の内容、実践活動、自己の実践の振り返り、及び実習に関する諸記録などから学修状況を確認し成績評価を行っている。

既修得単位の認定については、第 1 学年次の初めに願い出により審査の上、30 単位まで認定している（根拠資料 1-2）。

⑥：学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

評価の視点 1：各学位課程の分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定（特に専門的な職業との関連性が強いものにあつては、当該職業

を担うのに必要な能力の修得状況を適切に把握できるもの。)

評価の視点 2：学位授与方針に明示した学生の学習成果を把握及び評価するための方法の開発

《学習成果の測定方法例》

- ・ アセスメント・テスト
- ・ ルーブリックを活用した測定
- ・ 学習成果の測定を目的とした学生調査
- ・ 卒業生、就職先への意見聴取

評価の視点 3：学習成果の把握及び評価の取り組みに対する全学内部質保証推進組織等の関わり

各教科目における学修成果においては、科目の特徴にあわせて、定期試験、小テスト、課題レポートなどの方法を組み合わせて評価されている（根拠資料 4-14【ウェブ】）。基礎的な知識を修得する科目（病態生理学等）においては小テストによって確実な知識の積み重ねを確認し、技術を修得する科目（基礎看護実践論Ⅱ、Ⅳ等）では、実技試験（一部状況設定を取り入れてのパフォーマンス評価）を実施している。そして看護過程の思考獲得を目的とする基礎看護実践論Ⅴでは、評価表を作成し評価規準を明確にしたうえで評価している。

総合的な学修成果については、それを可視化するために教科目と DP の対照表（根拠資料 4-15）に基づき、2 年終了時と卒業時に DP 項目毎の GPA を算出し、学生の自己評価と共にレーダーチャートに示し、個人及び学年全体の達成度を把握している（根拠資料 4-16）。学生の自己評価において最も低い評価であった DP は「多様な文化と相互の違いを理解し、国際的感覚を高め、人々の健康課題を考えることができる」であったが、GPA では最も高い点数となっていた。履修した科目が少なく達成感が得られていないためと思われる。それ以外の学修成果を把握・評価として、各学期の GPA の学年間の推移や（根拠資料 4-17）各学年の学修時間の実態や学習行動調査結果（根拠資料 4-11）について、教務委員会から教授会で報告している。これら資料から学生の学修行動と成果の分析し、今後の授業デザインや学習指導の基礎資料としている。

また、キャリアセンターの協力により、就職先と卒業生にアンケート調査を行っている（根拠資料 4-19、4-20）。就職先からは、真面目で礼儀正しいという評価の一方、おとなしくておっとりしているという受動的態度が指摘されていた。卒業生のアンケートでは「有意義であったと感じる授業」に関して、看護基礎科目、専門科目、臨地実習に対して 80%以上が肯定的解答であった。

⑦：教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点1：適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価

・学習成果の測定結果の適切な活用

評価の視点2：点検・評価結果に基づく改善・向上

看護学部では、アセスメント・ポリシーを定め、評価に必要なデータを整理している（根拠資料 4-18）。教務委員は、コース希望をふまえて単位取得状況をモニタリングしている（根拠資料 4-4、4-5）。各教科担当者は、試験等により学生の学習成果の評価と授業アンケート（全体集計は根拠資料 4-10 参照）やリアクションペーパー等で授業評価を総合して、次回の授業改善に役立てている。

臨地実習においては、実習後に行う学生アンケートで、実習目標の達成状況を把握するとともに、学生の健康状態、教員・指導者の指導及び実習施設環境への満足度を調査し、次年度に向けた改善に役立てている（根拠資料 4-21）。さらに、学生が提出する、インシデント報告書の集計結果を踏まえて、次年度の実習指導のための改善点の把握に努めている（根拠資料 4-22）。臨地実習施設ごとに臨地実習指導者会議を実習開始前と終了後の 2 回開催し、学修成果と課題の共通理解の機会を持つことで臨地実習指導の改善につなげている。

看護実践能力として重要な看護技術については、卒業時到達度検討チームが 3 年次生の「看護技術レベルチェックリスト」を集計しており、その結果を基に、次年度の講義や演習、臨地実習で強化するものを学科全体で検討し、教育内容や教育方法の改善に役立てている（根拠資料 4-23）。

また、日常的に課題視していて、就職先からも「おとなしくておっとりしている」という受動的態度が指摘されていたことから、2019 年度には「学生の主体的を育む教育」を重点課題に掲げ、FD 委員会と学部運営会議共同で調査・研修企画を行った（根拠資料 4-24、4-25）

表 アセスメント・ポリシーに基づく具体的な検証方法

|                    | 入学前・入学後   | 在学中（単位認定・卒業判定）  | 卒業時（卒業後）   |
|--------------------|---|---|--|
|                    | アドミッション・ポリシーを満たす人材かどうかの検証   | カリキュラム・ポリシーに則って学修が進められているかどうかの検証  | ディプロマ・ポリシーを満たす人材になったかどうかの検証  |
| 機関レベル<br>(大学全体レベル) | <ul style="list-style-type: none"> <li>各種入学試験の結果</li> <li>調査書等の記載内容</li> <li>面接、志願理由書等</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>GPA の状況</li> <li>修得単位数</li> <li>外部テスト</li> <li>学修行動調査</li> <li>満足度調査</li> <li>ボランティア等の課外活動の状況</li> <li>退学率</li> <li>休学率</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>満足度調査</li> <li>卒業生へのアンケート調査</li> <li>学位授与数</li> <li>就職率</li> <li>就職先</li> <li>免許・資格の取得状況</li> </ul> |

|                       |   |  |   |
|-----------------------|---|--|---|
| 教育課程<br>レベル<br>(看護学部) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種入学試験の結果</li> <li>・外部英語力テスト</li> <li>・面接、志願理由書等</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・GPAの状況</li> <li>・修得単位数</li> <li>・外部テスト</li> <li>・学修行動調査</li> <li>・満足度調査</li> <li>・ボランティア等の課外活動の状況</li> <li>・退学率</li> <li>・休学率</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・満足度調査</li> <li>・卒業生へのアンケート調査</li> <li>・学位授与数</li> <li>・就職率</li> <li>・就職先</li> <li>・看護技術習得レベル</li> <li>・保健師採用試験合格者数</li> <li>・教員採用試験合格者数</li> <li>・国家試験合格率（保健師、助産師、看護師）</li> <li>・養護教諭I種免許状取得状況</li> </ul> |
| 科目レベル                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレイスメントテストの結果</li> </ul>                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・成績評価</li> <li>・学生の授業アンケート</li> </ul>   |   |

附) コロナ感染症対策としての教務活動

1. 技術教育演習の工夫

技術教育に関する教育検討を担当する卒業時到達検討委員会により「看護学実習室等での演習における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」を策定した（根拠資料 4-27）。

2. 地域の感染状況に応じた実習方法の工夫

- ①臨地での実習が困難な状況で遠隔での実習コンテンツを作成して1Wの学内実習を企画し実施した（根拠資料 4-28）。
- ②臨地実習が条件付きで可能になり、通常とは異なる実習方法を考案し実施した。
- ③感染状況悪化により再び臨地での実習が出来なくなったことに応じて、再度、学内遠隔実習の方法を考案し実施した。

3. 対面での技術演習を確保するための時間割調整（根拠資料 4-29）

(2) 長所・特色

本学部は、看護を学び看護師資格の取得を目指すための教育課程を基盤としつつ、選択により保健師、助産師、養護教諭への道を拓く教育が準備されており、細やかにキャリア形成に向けた指導を行っている。入学時から将来像について説明し、学期毎のオリエンテーションにおいて、コース別履修指導を実施している。また、必修科目の単位取得ができなかった、コースに必要な科目の単位が取得できなかった等、予定とは異なる履修が必要になった場合は、教務委員で担当を決めフォローしている。

また、指導は履修方法にとどまらず、アドバイザーと協働しながら、モチベーション低下や成績が低迷している学生の学習支援も行っている。

学修成果の把握のためのデータ収集や分析についても、各委員会の努力によって継続的に行われている。

学生の学びを保証するための教材研究に熱心な教員が多く、コロナ感染対策のために急

な遠隔授業が求められた際にも様々な工夫がなされ、アンケートで総合的満足度について尋ねたところ、60%以上の学生が5点満点で4点以上をつけていた（根拠資料4-23）。

### （3）問題点

アセスメント・ポリシーを定めて各種データを収集し分析しているが、総合的な判断が十分とは言えない。

また、2019年からのカリキュラム改正については、その成果について評価するには時期尚早であり今後の課題である。

### （4）全体のまとめ

アドバイザー担当教員と教務委員会や実習調整委員会など、各委員会との連携がはかれていることから、学生対応が細やかに行われている。今後も継続して実施していくことが求められる。特に、各資格のコース選択が複雑化しているため、前期、後期に実施するオリエンテーション内容の充実と、学生が納得の行くようなコース選択ができるように、教務委員会とアドバイザー教員が情報を共有し支援していく必要がある。

また、アセスメント・ポリシーを定めて各種データを収集し分析しているが、総合的な判断と、それをふまえた改善が十分とは言えないため、どの組織がその役割を担うか明確化し実行することが必要である。



## 基準5 学生の受け入れ

### (1) 現状説明

#### ①：学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点1：学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表

評価の視点2：下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定

- ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像
- ・入学希望者に求める水準等の判定方法

#### <評価の視点1>

本学の教育目標の実現のため、求める学生像として、看護学部看護学科のアドミッション・ポリシー（入学者受入方針）を以下のように定め、学生募集要項及び本学ウェブサイト、大学案内パンフレットに明示している（根拠資料 5-1【ウェブ】、1-4【ウェブ】、5-2【ウェブ】、5-3【ウェブ】）。

##### ○看護学部看護学科のアドミッション・ポリシー

- ・看護職として人々の健康と暮らしを支えることを志す人
- ・入学後の学修に必要な基礎学力のある人
- ・筋道をたてて自分の考えを述べる事が出来る人
- ・自ら力を発揮しながら様々な人と協力することが出来る人

#### <評価の視点2>

入試区分は、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜 A、一般選抜 B、学园内特別推薦入試、社会人特別選抜である。2021年度入学者選抜基本方針として、学力の3要素（①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）をアドミッション・ポリシーに基づき、多面的・総合的に評価することとしている。アドミッション・ポリシーは、学力の3要素と関連しており、入試区分ごとの試験内容と方法に応じて、どのアドミッション・ポリシーの側面を重視して評価するか、異なっている（根拠資料 5-4）。志願者の得意とすることを受験において発揮できるように考慮し、入学後に学生が各々の長所を活かして、学んでいくことを期待したものである。

2020年度までの入試においては、年に7回開催するオープンキャンパス（志願者と保護者向け）、本学主催の大学説明会（高校教員向け）、新潟県高等学校長協会と県内各大学の協議会である「大学ガイダンスセミナー」（高校教員向け）、高校訪問等々において説明している。過去の入試問題（推薦入試、一般入試）も配布している（根拠資料 5-5）。

2021年度入試については、新型コロナウイルス感染症への対応のため、従来の来場型オープンキャンパスを一部中止したり、従来の方法を変更したりして実施している（根拠資料 5-6【ウェブ】）。また、ウェブサイト上に「WEB オープンキャンパス」を新たに開設するとともに、受験生や保護者、教員向けに「LINE による個別相談」を設け、入試等についてオンラインでの相談を行っている（根拠資料 5-7【ウェブ】、5-8【ウェブ】）。さ

らに、対面での本学主催の大学説明会（高校教員向け）の代替として、2021年度学生募集説明会をWebで開催することとした（根拠資料 5-9【ウェブ】）。

アドミッション・ポリシーにある「基礎学力」は、総合型選抜における「授業のまとめ」、一般選抜 A・B における国語、英語、数学、理科の教科の試験によって判定を行う。また、「健康と暮らしを支えること」や「筋道をたてて自分の考えを述べること」、「様々な人と協力すること」については、小論文試験や面接試験を行うことで判定を行っている（根拠資料 5-1【ウェブ】、5-10）。さらに、2021年度入試からは、どの入試区分においても、「志望理由書・活動報告書」による評価を実施し、「主体性・多様性・協働性」の観点から、「健康と暮らしを支えることを志す」こと、「様々な人と協力すること」について評価する（根拠資料 5-11、5-12【ウェブ】）。

なお、2021年度学生募集要項においては、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜 A、一般選抜 B について、試験内容に加え、受験生がどのように評価されるか分かるように、評価方法も併せて明記している（根拠資料 5-1【ウェブ】）。

②：学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点 1：学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定

評価の視点 2：授業その他の費用や経済的支援に関する情報提供

評価の視点 3：入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備

評価の視点 4：公正な入学者選抜の実施

評価の視点 5：入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施

<評価の視点 1 >

入試選抜方法については、学生募集要項や本学ウェブサイトで公表している（根拠資料 5-1【ウェブ】、5-13【ウェブ】）、オープンキャンパスや学生募集説明会、高校訪問等の機会を活用して、学生募集を行っている。

看護学部の入学者選抜方法は、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜 A、一般選抜 B である。いずれの入試区分においても、「志望理由書・活動報告書」による評価を実施し、「主体性・多様性・協働性」の観点から評価基準を設定し、評価する（根拠資料 5-11）。

総合型選抜は、第 1 次試験と第 2 次試験の 2 段階選抜により、適性、学習意欲、能力などを総合的に判断し合格者を決定する。第 1 次試験は「人々の健康と暮らし」に関する授業を受けて理解したことと考えたことを記述する「授業のまとめ」と、志望理由やこれまでの活動の様子に関する内容の「面接（個別面接）」を実施する。第 2 次試験では、「人々の健康と暮らし」に関する課題文を読み、内容と意見について述べた後、質疑応答を行う「面接（個別面接）」を実施する（根拠資料 5-1【ウェブ】、5-13【ウェブ】、5-14）。「授業のまとめ」と「面接（個別面接）」は、学校推薦型選抜は、学力の 3 要素及

びアドミッション・ポリシーを踏まえて作成した評価基準に基づいて、評価を行う（根拠資料 5-15）。

学校推薦型選抜は「小論文」と「面接（個別面接）」により、総合的に評価する。学園内特別推薦入試及び社会人特別選抜の選抜方法は、学校推薦型選抜と同じある。一般選抜 B では、「国語」、「英語」、「面接（グループ面接）」を必修としており、「数学」と「理科」のどちらか 1 つを選択することとしている。「数学」と「理科」は共通テストの成績を利用し、数学、理科の教科から「数学Ⅰ・数学A」、「数学Ⅱ・数学B」、「物理」、「化学」、「生物」から 1 科目、または、「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」から 2 科目のいずれかを選択することとしている（根拠資料 5-1、5-13【ウェブ】）。これまで推薦入試や一般入試の面接において、アドミッション・ポリシーを踏まえて評価基準を設けて面接要項を作成し、評価を行ってきた（根拠資料 5-16、5-17、5-18）。学校推薦型選抜と一般選抜 A の面接についても同様に、面接要項を作成して評価をしていく。

一般選抜 B は、すべての科目で共通テストの成績を利用し、「国語（古文・漢文を除く）」「英語（リスニングを含む）」は必修としており、数学、理科の教科から「数学Ⅰ・数学A」、「数学Ⅱ・数学B」、「物理」、「化学」、「生物」から 1 科目、または、「物理基礎」、「化学基礎」「生物基礎」、「地学基礎」から 2 科目のいずれかを選択することとしている（根拠資料 5-1【ウェブ】、5-13【ウェブ】）。

<評価の視点 2>

入学者選抜に関する計画、運営、点検等についての全体は、全学の入学試験委員会が担っている。看護学部からは 4 人の委員が所属し、看護学部教授会と連携しながら業務にあたっている（根拠資料 5-19）。2021 年度入試から総合型選抜を新たに導入するにあたり、総合型選抜のために 6 名のメンバーからなる検討チームを設け、作題・点検・採点を行う（根拠資料 5-20）。

<評価の視点 3>

学校推薦型選抜と学園内特別推薦入試、社会人特別選抜の小論文試験においては、福祉心理学部と合同でテーマの選定と評価基準の作成を行なっている。テーマは高校生にも身近なものとし、文章の要約と自分の意見について評価基準に基づいて評価する。両学部から出題及び採点委員が選定され、十分な検討の上、実施している。

一般選抜 A の学力試験も、福祉心理学部と合同で科目ごとに複数の委員によって作題・点検・採点を行なっている。高校の基礎的内容を重視して作題している。選択科目による平均点の差異に対応するために、判定値算出に際して中央値補正法による調整を行っている。

これまで推薦入試、一般入試、社会人特別選抜における面接試験に当たって、事前に面接委員の打ち合わせを行い、基準に沿った適切な評価が行われるように、共通理解を図ってきた（根拠資料 5-16、5-17、5-18）。打ち合わせ後には、各面接委員が受験生の出願書類に目を通して、出願書類の内容も活かした面接が実施できるようにしている。2021 年度入試以降の学校推薦型選抜、一般入試 A、社会人特別選抜においても、同様に共通理解を図っていく。

学園内特別推薦入試においては、2020 年度入試まで、調査書、推薦書、志望動機書によ

る書類選考を行ってきたが、2021年度入試からは、学校推薦型選抜と同じく、「小論文」、「面接（個別面接）」、「志望理由書・活動報告書」により選考を行う。

<評価の視点4>

入学希望者で、心身の障害等により受験上または入学後特別な配慮を必要とされる場合、不安を感じている場合は、各試験区分の出願開始日1ヶ月前までに相談をすることとしており、学生募集要項にも明示している。また、オープンキャンパスにおいても、キャンパスや学内の施設・設備の状況を確認したり、入学後の学習・生活への配慮等について教職員に相談したりすることが可能である（根拠資料5-1【ウェブ】）。

不登校のために学校で勉強する機会を失ってしまった児童・生徒に対して学習環境を保障するために制定された「教育機会確保法（義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律）」などを考慮し、2021年度以降の学校推薦型選抜では、推薦入試において欠席日数30日以内、評定平均値3.6以上としていたこれまでの出願要件をなくすこととした。ただし、指定校推薦においては従来通りとしている（根拠資料5-11）。

③：適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点1：入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理

- ・入学定員に対する入学者数比率（【学士】【学専】）
- ・編入学定員に対する編入学生数比率（【学士】【学専】）
- ・収容定員に対する在籍学生数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

<評価の視点1>

過去5年分の試験結果を本学ウェブサイトで開示し、誰もが容易に参照できる方法で公表しており、適切に学生の受け入れを行っている判断できる（根拠資料5-21【ウェブ】）。

2018年度には、入学定員を85人から90人に増員した（根拠資料5-1【ウェブ】、5-13【ウェブ】）。2020年度入試の結果は以下の通りとなっており、入学定員に対する入学者数比率は、1.02であった。

2020年度の看護学科の収容定員は4学年合わせて360人、在籍学生数は過年度生を含めて368人で、収容定員に対する在籍学生数比率は1.02であり、適切であると判断できる。そのため、編入学試験は実施しておらず、定員に対する在籍学生の過剰・未充足に関する対応は行っていない。

## 2020 年度入試結果

| 試験区分                   | 定員  | 志願倍率 | 受験倍率 | 実質倍率 | 入学者 |
|------------------------|-----|------|------|------|-----|
| 推薦（指定校を含む）             | 37  | 1.65 | 1.65 | 1.65 | 37  |
| 一般入試                   | 35  | 4.17 | 4.03 | 1.81 | 40  |
| センター試験利用入試（前期）         | 11  | 9.73 | 9.73 | 2.55 | 9   |
| センター試験利用入試（後期）         | 2   | 3.50 | 3.50 | 3.50 | 1   |
| 新潟青陵学園内（高大一貫コース）特別推薦入試 | 5   | 1.00 | 1.00 | 1.00 | 5   |
| 社会人特別選抜                | 若干名 | —    | —    | —    | 0   |
| 計                      | 90  | 3.62 | 3.57 | 1.96 | 92  |

④：学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点 1：適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価

評価の視点 2：点検・評価結果に基づく改善・向上

### <評価の視点 1 >

毎年度、看護学部入試区分ごとの学生追跡調査結果をまとめ、入試委員会において、各入試区分の人数、偏差値、GPA 等のデータをもとに傾向と今後の方向性の検討を行っている。2019 年度からは、学力の 3 要素に関わる学習成果を直接的なデータを用いて評価し、入試の選抜方法の改善等に活かすために、IR 推進室に IR 分析依頼書を提出してデータ分析を依頼している。入試区分ごとの IRT テスト（国語、英語、数学）、PROG テスト（リテラシー、コンピテンシー）、GPA の分析結果の元データをもとに看護学部の入試委員で要点をまとめ、看護学部教授会に報告している（根拠資料 5-4、5-22、5-23、5-24、5-25）。

各入試区分の人数、入学者選抜方法などの学生募集要項の内容については、前年度に、入試委員会の検討を経て、学部運営会議及び看護学部教授会において審議している（根拠資料 5-26）。

### <評価の視点 2 >

推薦入試における指定校については、高校の偏差値、これまでの入試実績（出願人数、合格人数）等をもとに、毎年度、見直しを行っている（根拠資料 5-27）。2020 年度入試の指定校実績を見ると、15 校からの出願があり、高校偏差値 47 を超えており、概ね学力のある学生が受験していることがうかがえる（根拠資料 5-28）。高校訪問等において、入試に関する情報や入学生の状況などを、必要に応じて高校側に伝えている。

新潟青陵学園内（高大一貫コース）特別推薦入試については、高校側と定期的に情報交換の機会を設け、継続的な連携を行っている。GPA は資格取得にも影響するため、教務の指導にも活用している。

入試委員会の活動については、看護学部の PDCA サイクルシートを活用し、毎年度、業評価と改善に努めている（根拠資料 5-29）。

## (2) 長所・特色

総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜 A、学園内特別推薦入試、社会人特別選抜において、面接試験を課しており、学力のみに偏重することなく、アドミッション・ポリシーに沿った入学者選抜を行っている。面接試験では、コミュニケーション力や学ぶ意欲等について、評価の基準を明確にして評価している（根拠資料 5-15、5-16、5-17、5-18）。看護学部での演習や実習を含む授業を受ける上で必要な能力について考査するとともに、看護職に求められる適性を見極めている。

2021 年度入試において、入試制度が大きく変更となり、入試区分も、推薦入試は学校推薦型選抜、一般入試は一般選抜となり、共通テストの成績の利用が可能となった。出願要件、入学試験内容、入学試験実施・合格発表時期、出願書類の活用、学力の 3 要素を踏まえた評価等、入試選抜方法について検討を経て、学校推薦型選抜、一般選抜 A の他にも、総合型選抜、一般選抜 B（共通テスト利用）、新潟青陵学園内（高大一貫コース）特別推薦入試、社会人特別選抜といった入試区分を設け、多様な方法で学生の獲得を図っている（根拠資料 5-1【ウェブ】、5-13【ウェブ】）。

## (3) 問題点

新潟県内では長岡崇徳大学、隣県では富山県立大学が、2019 年 4 月に看護学部が設置され、入学希望者人数への影響が懸念される。そのことに加え、少子化による志願者数の減少が予測される。

2021 年度入試において、入試制度が大きく変更となったことにより、入試結果を踏まえて、新たな入試選抜方法について、今後改善を図っていく必要がある。

## (4) 全体のまとめ

学生受け入れにおいて、概ね適切に入学試験が実施されているといえる。出願書類の活用、面接試験の実施などにより、アドミッション・ポリシーや看護職としての適性を大切にしたい入学試験となるように配慮している。毎年度、入試結果や入学後の学生の状況などの具体的なデータに基づいた検討を行うとともに、PDCA サイクルシートを活用して、十分な点検・評価を行っている。

今後は、入試制度の変更に伴う学生受け入れのあり方についての検討を継続するとともに、近隣の大学や少子化などの状況を鑑み、面接試験の実施など幅広く優れた学生を求めるために、募集方法について、県内だけでなく県外での周知を一層図っていく。

## 基準6 教員・教員組織

### (1) 現状説明

①：大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

評価の視点1：大学として求める教員像の設定

・各学位課程における専門分野に関する能力、教育に対する姿勢等

評価の視点2：各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針（各教員の役割、連携のあり方、教育研究に係る責任所在の明確化等）の適切な明示

看護学部の教育上の目的は、「生命の尊厳・人間尊重」の理念を基盤とする高い倫理性と豊かな人間性を培い、看護の専門的知識と技術を教授することにより、看護専門職として地域・国際社会に貢献することのできる人材を育成することにある（根拠資料1-2 p.2、1-3）。この目的に対応すべく、看護学、医学、学校保健学の教育・研究を担当するに相応しい専門性を有し、地域貢献に積極的に取り組む姿勢のある教員により編成している。2020年度12月3日大学全学教員会議で大学が求める教員像と教員組織の編制方針が明文化されたため、大学の理念・目的を達成するために、看護学部の教員組織の在り方を検討していくことにする。

看護学部の教員組織は、看護学6領域と医学、学校保健学で構成している。教育活動は教授を責任者として准教授・助教・助手で編成され、役割分担を構成員の合議により調整している。

看護学部の学部運営は、学部長を責任者とする学部運営委員会が企画・運営し（根拠資料6-1）、下部組織の各委員会は委員長と委員が連携して大学の長・中期目標に向けて活動している。各委員会個々に各年単位でPDCAサイクルを展開し、学部運営委員会が点検して取りまとめ、教授会で審議している（根拠資料1-5、1-6）。この活動は2014年度から継続し、各委員会の活動は自律的であり、大学全体の委員会の委員と兼務しているため連携も図られ、多くの委員会の目標達成が十分に果たされている。

②：教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

評価の視点1：大学全体及び学部・研究科等ごとの専任教員数

評価の視点2：適切な教員組織編制のための措置

- ・教員組織の編成に関する方針と教員組織の整合性
- ・各学位課程の目的に即した教員配置
- ・国際性、男女比

- ・実務家教員の適正な配置（【学専】 【院専】）（研究能力を併せ有する実務家教員の適正な配置【学専】）
- ・特定の範囲の年齢に偏ることのないバランスのとれた年齢構成への配慮
- ・教育上主要と認められる授業科目における専任教員（教授又は准教授）の適正な配置
- ・研究科担当教員の資格の明確化と適正な配置
- ・教員の授業担当負担への適切な配慮

評価の視点3：教養教育の運営体制

看護学部の専任教員数は31人で、教授12人、准教授6人、講師・助教13人であり、これに実習・演習等に適切に対応するため助手5人と実習・演習助手1人を合わせ37人の教員を配置している。これにより、大学設置基準上必要な12人を超える専任教員を措置するとともに、保健師・助産師・看護師の各種資格付与のための関係法令・規程に基づいて構成され、専任教員全員が実務経験を有し、教員組織の編成は適切である。

表1 看護学6領域と医学と学校保健学の構成人数

|       | 専門領域     | 教授      | 准教授   | 講師・助教  | 合計      |
|-------|----------|---------|-------|--------|---------|
| 看護学   | 基礎看護学    | 1 (1)   | 1 (1) | 2      | 4 (2)   |
|       | 成人看護学    | 3 (3)   | 1 (1) | 2 (1)  | 6 (5)   |
|       | 老年看護学    | 1 (1)   |       | 2      | 3 (1)   |
|       | 精神看護学    |         | 1     | 1      | 2       |
|       | 母子・助産看護学 | 3 (3)   | 2 (1) | 3      | 8 (4)   |
|       | 公衆衛生看護学  | 1 (1)   |       | 3      | 4 (1)   |
| 医学    |          | 2 (1)   |       |        | 2 (1)   |
| 学校保健学 |          | 1 (1)   | 1 (1) |        | 2 (2)   |
|       | 計        | 12 (11) | 6 (4) | 13 (1) | 31 (16) |

\* ( ) は看護学研究科と兼任する教員数

平均年齢は教授 59.1 歳、准教授 54.3 歳、講師・助教 49.1 歳、助手 38.9 歳であり、男女比の割合は 4 対 34 である。外国人はいない。

教職関連科目の教育は、学校保健学の教員 2 人と社会福祉学科の教員 2 人と共同で担当し、養護教諭養成課程の認可を受け、看護と教育の双方の教育を教授する人員が揃っている。

教員の科目担当適合性は、任用時に非常勤講師も含め教員人事委員会で審査を行い、評議会の審議を経て承認している。また、「授業アンケート」（根拠資料 4-10、6-2【ウェブ】）と「卒業生アンケート」（根拠資料 4-20、6-3）により定期的に点検し、科目担当の適合性を判断している。教員の半数が看護学研究科と兼任しており、学部と研究科の教科目担当数数を勘案して調整を図っている。



③：教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。

評価の視点1：教員の職位（教授、准教授、助教等）ごとの募集、採用、昇任等に関する基準及び手続の設定と規程の整備

評価の視点2：規程に沿った教員の募集、採用、昇任等の実施

教員の募集、採用、昇任の規定（根拠資料 6-4）に基づいて、教員の募集は公募を基本としており、教員選考に基づき教員人事委員会で審査・選考を行い、評議会で決議し、その結果は教授会に報告しており、適切である。昇任は年一度、学部長が教授会で昇任を考えている人の相談を受け付ける事を周知し、面接して教員選考基準を確認する。基準を満たしている場合、教員人事委員会で審査を行い、評議会で決議し、その結果を教授会に報告している。

④：ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。

評価の視点1：ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動の組織的な実施

評価の視点2：教員の教育活動、研究活動、社会活動等の評価とその結果の活用

大学全体で実施している FD 活動の中でも、アクティブラーニングの推進に向けた FD 活動への参加は、全教員が積極的に参加し、授業改善に取り入れている。コロナ感染対策として遠隔授業による講義・演習・実習とも、教員相互の協力で対応できた。また、看護学部独自の FD 活動は以下である。

看護学部の大学教員としての今日的な問題に精通できるような機会を増やすために、看護学部 FD 委員会が講演会を実施し、参加者から好評を得ている（根拠資料 6-5）。2019 年度の講演会はコロナ感染拡大により中断したが、2020 年度末までに WEB 講演会で開催予定である。さらに、日本看護系大学協会、日本私立看護系大学協会、千葉大学看護実践センター主催の講演会や講習会に教員を派遣し、学部内で伝達講習の機会を設けて活用化を図っている。コロナ感染対策の強化中は、伝達講習も WEB 配信動画で実施する。

2018 年度から入職時に新任教員を対象として、FD プログラムを実施している。大学・学部学科組織と大学や学部が目指す教育、研究、社会貢献等に関する基本的知識を得るためのプログラムであり、新任教員は全員参加している（根拠資料 6-6）。

研究成果は新潟青陵学会誌をはじめ、新潟青陵大ウェブサイト上のリサーチマップや新潟県地域共同リポジトリで学術論文の登録・公開を行なっている。さらに、毎年、地域の病院から看護研究指導の依頼があり、2020 年度は 11 施設に 21 名の教員が派遣され、地域の看護研究の質向上に貢献をしている（根拠資料 6-7）。さらに、新潟県主催の看護教員養成講習会や臨地実習指導者講習会の講師派遣や、新潟県看護協会の役員、各種研究会の役員等を担い、地域貢献活動に積極的に参加している（根拠資料 6-7）。

青陵大学・教員評価の基本方針（根拠資料 6-8）が 2018 年度に示され、2019 年度から

授業改善に向けた教員個々のティーチング・ポートフォリオを開始した（根拠資料 6-9）。さらに、2018 年度に FD・ポートフォリオ（根拠資料 6-10）を加え、2019 年度より自己評価と他者評価が開始された。評価面接は、看護学部と看護学研究科を併任する教員が半数を占めるため、学部長と学科長に研究科長の三者で分担して行い、運用にあたり改善点を確認しながら進めている。2020 年 12 月大学全学教員会議で、教員評価の基本方針を決定した。この結果を受け、教員個々人が自律的・主体的に点検・評価して、資質向上に資する運用となるように、より評価者と評価対象者の双方の共通理解を得て進めていく段階である。

⑤：教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

|   |
|---|
| 評価の視点 1：適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価<br>評価の視点 2：点検・評価結果に基づく改善・向上 |
|---|

教員組織の適切性に関連して、教員定数について 2020 年度より看護学部と看護学研究科の人事委員会で検討を開始した（根拠資料 6-11）。2022 年度を目途に看護学科の教育課程の改定を予定しており、改定に対応した教員定数の見直しを看護学部教授会と看護学研究科委員会で審議していく予定である。

大学全体として実施している「授業アンケート」（根拠資料 4-10、6-2【ウェブ】）、「卒業生アンケート」（根拠資料 4-20、6-3）、「学生満足度調査」（根拠資料 6-12）、ならびに各教員による年 2 回の授業公開と見学者からの意見（根拠資料 6-13）に基づいて毎年点検を行い、改善につなげている。

看護学部の教員は、評議会所管委員会、組織所管委員会に加え、学部運営委員会に所属し、委員会毎に大学中期目標に対応した目標を設定し、PDCA サイクルをまわしている。毎年、年度末 3 月教授会で各委員会の活動報告を点検し、評価結果に基づいた次年度の改善計画を次年度 4 月までに報告して、点検・評価結果に基づく改善を行なっている（根拠資料 1-5、1-6）。

## （2）長所・特色

看護学部の教員組織の編成方針に基づき、大学設置基準及び各種資格付与のため関係法令・規程に基づき、教育課程に相応しい教員組織を編成している。

教員の資質向上に向け、大学全体のFD活動と看護学部独自のFD活動を組み合わせ、組織的に運営している。双方のFD活動の中心は、社会の変化に対応する教育のあり方に関するものが多く、ほとんどの教員は積極的に参加し、コロナ禍においても質の高い教育を提供できた一因と考える。学生の授業評価や学生満足度調査等で、概ね良い評価を受け、適切な教育活動が展開できていると評価する。

看護学部の教員組織は、大学と学部の各委員会に参加し、教育・研究・社会貢献・大学

運営において、自律的に大学の長・中期目標に向けて活動している。各委員会の活動の多くは、目標達成が十分に果たされ、教員相互の協力体制が機能している。さらに、開学以来、地域の病院や行政、職能団体と連携し、それぞれの専門分野と関連する活動に協力し、社会貢献に積極的に展開している。

### (3) 問題点

2020年12月に教員像が明文化され、看護学部の教員組織の適合性を照らして点検・評価する必要がある。

教員の教育活動、研究活動、社会活動等の評価の方針が決定し、看護学部と看護学研究科が連携して、評価とその結果の活用について検討を開始した段階である。教員評価の目的やその活用について、看護学部構成メンバーの納得が得られる運用にするために、メンバーの様々な意見や要望に対応が求められている。

### (4) 全体のまとめ

2020年12月に大学が求める教員像と教員組織の編制方針が明文化されたため、看護学部の役割を遂行できる教員組織の適切性を評価する体制作りが求められている。

専任教員の編成は、資格付与のため関係法令・規程に基づき適切であり、教育研究活動に熱心に取り組んでいる。大学主催のFD活動に加え看護学部独自のFD活動、新任教員のFD活動により、教員の資質向上を組織に行い、貢献をしている点を加えると、大いに評価できる。さらに、2014年度から開始したPDCAサイクルによる評価・点検が軌道に乗り、各委員が自律的に活動を展開しており、着実な教育研究・地域貢献活動ができている。

今後は、教員のティーチング・ポートフォリオとFD・ポートフォリオを活用し、教員の人材育成に繋がる体制の整備を図っていく。

## 終章

第 1 章「理念・目的」について、大学の理念・目的、及び学部の教育上の目的に基づき、社会に求められている看護の人材が育成・排出され、入学定員の確保が継続している。このことから、大学の理念・目的、及び学部の教育上の目的に向けた取り組みは、現時点で有効に機能しており、今後も継続していく必要がある。

第 4 章「教育課程・学習成果」では、教育目標及びディプロマ・ポリシーに基づいてカリキュラム・ポリシーを定め、資格（看護師・保健師・助産師・養護教諭）ごとに整理されたカリキュラムマップを用い、コース別履修指導を細やかに実施している。さらに、定期的な学年ごとのアドバイザー会議、履修上問題のある学生に関する情報共有システム化が整備され、必要時には臨床心理士等を交えたケース会議を開催するなど、学生対応が細やかに行われている。今後も継続して実施していくことが求められる。

第 5 章「学生の受入れ」について、概ね適切に入学試験が実施され、入試結果や入学後の学生の状況などの具体的なデータに基づいた検討を行うとともに、PDCA サイクルシートを活用して、十分な点検・評価を行っている。今後は、少子化などの状況を鑑み幅広く優れた学生、及び定員確保継続へ向け、募集方法について、県内だけでなく県外での周知を一層図っていく。

第 6 章「教員・教員組織」では、学部教員組織の編成方針に基づき、大学設置基準及び各種資格付与のための関係法令・規程に基づき、教育課程に相応しい教員組織を編成している。このことは、授業評価や学生満足度調査で概ね良い評価につながっている。また、FD 活動は、大学全体、及び看護学部独自の活動を組み合わせ、組織的に運営している。2020 年 12 月に大学が求める教員像と教員組織の編成方針が明文化されたため、看護学部の役割を遂行できる教員組織の適切性を評価する体制作りが求められている。今後は、教員のティーチング・ポートフォリオと FD・ポートフォリオを活用し、教員の人材育成に繋がる体制の整備を図っていく。

以上のことから、「理念・目的」、「教育課程・学習成果」、「学生の受入れ」、「教員・教員組織」に関し、有機的に適切であるといえる。しかし、18 歳人口の減少による定員確保の問題、何らかの配慮を要する学生の増加、看護系大学・養成所の増加等、今後に予想される看護教育を取り巻く問題に対し、看護教育の質保証とリスクマネジメントができるよう、本学看護学部の特性と強みを活かせる点検評価を継続していくことが重要と考える。

新潟青陵大学看護学部提出資料一覧

点検・評価報告書

| その他の根拠資料    |   |     |      |
|-------------|---|-----|------|
|             | 資料の名称   | ウェブ | 資料番号 |
| 1 理念・目的     | 【平成28年度第2回教学改革推進会議資料】新3Pと大学教育イニシアティブ          |     | 1-1  |
|             | 2020年度学生便覧                                    |     | 1-2  |
|             | 新潟青陵大学学則第3条第3項                                |     | 1-3  |
|             | 看護学部教育目的および目標                                 | ○   | 1-4  |
|             | 平成31（2019）年度 第7回学部運営会議議事次第                    |     | 1-5  |
|             | 【2019年度PDCA】 【2020年度PDCA】                     |     | 1-6  |
|             | 卒業生進路決定状況（平成27（2015）年度～令和元（2019）年度：看護学部看護学科   |     | 1-7  |
|             | 国家試験合格率の推移                                    |     | 1-8  |
| 4 教育課程・学習成果 | 臨地実習要項 2020年度版                                |     | 4-1  |
|             | 2019卒トレオリ資料①②                                 |     | 4-2  |
|             | 2019行政保健師就職学生卒業前技術演習 について                     |     | 4-3  |
|             | 教務委員会 要支援学生フォルダ-2020年度                        |     | 4-4  |
|             | 2016生キャリアプラン                                  |     | 4-5  |
|             | シラバスの記載方法                                     |     | 4-6  |
|             | 実習科目のシラバスの記載方法変更                              |     | 4-7  |
|             | シラバス点検者・スケジュール                                |     | 4-8  |
|             | シラバス点検シート                                     |     | 4-9  |
|             | 授業アンケート2019前期                                 |     | 4-10 |
|             | 学修時間実態・学習行動把握調査                               |     | 4-11 |
|             | 2020年度実習配置表                                   |     | 4-12 |
|             | 2019年度第2回臨地実習指導検討会                            |     | 4-13 |
|             | 本学ウェブサイト(講義概要(シラバス))                          | ○   | 4-14 |
|             | カリキュラムマップ(看護学科DPとカリキュラムの対照表)                  |     | 4-15 |
|             | 2018年度看護学科学修成果(2015年入学生)                      |     | 4-16 |
|             | 2019年後期GPA分布                                  |     | 4-17 |
|             | アセスメントポリシー                                    |     | 4-18 |
|             | 大学卒業生就労実態等アンケート調査                             |     | 4-19 |
|             | 卒業生調査看護学科                                     |     | 4-20 |
|             | 2019年度領域別実習アンケート実施報告                          |     | 4-21 |
|             | 2019年度インシデント・アクシデント報告                         |     | 4-22 |
|             | N3看護技術レベルチェックリスト集計                            |     | 4-23 |
|             | 学生の主体性を育む教育」に関する調査報告                          |     | 4-24 |
|             | 看護FD講演会                                       |     | 4-25 |
|             | 2020前期遠隔授業アンケート結果                             |     | 4-26 |
|             | 看護学実習室等での演習における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン 2020.11.3 |     | 4-27 |
|             | 2020 学内・遠隔実習の内容・方法(配置情報含む)                    |     | 4-28 |
|             | 後期授業の見通しと時間割調整                                |     | 4-29 |
| 5 学生の受け入れ   | 2021年度学生募集要項デジタルパンフレット                        | ○   | 5-1  |
|             | 大学ウェブサイト、【大学】アドミッション・ポリシー                     | ○   | 5-2  |
|             | 本学ウェブサイト(デジタルパンフレット CAMPUS GUIDE 2021)        | ○   | 5-3  |

|           |  |   |      |
|-----------|--|---|------|
|           | 2019年度教授会（7月）資料、入試区分ごとの学習成果の評価方法について           |   | 5-4  |
|           | 2020入学試験問題集                                    |   | 5-5  |
|           | 大学ウェブサイト（オープンキャンパス）                            | ○ | 5-6  |
|           | 大学ウェブサイト（WEBオープンキャンパス）                         | ○ | 5-7  |
|           | 大学ウェブサイト（LINEによる個別相談をはじめます）                    | ○ | 5-8  |
|           | 大学ウェブサイト（高校教員向け『学生募集動画』のご案内）                   | ○ | 5-9  |
|           | 2020年度教授会（7月）資料、2021年度入試概要                     |   | 5-10 |
|           | 2019年度教授会（7月）資料、2021年度入学者選抜について                |   | 5-11 |
|           | 大学ウェブサイト、志望理由書・活動報告書<看護学部>                     | ○ | 5-12 |
|           | 大学ウェブサイト、【大学】入試概要                              | ○ | 5-13 |
|           | 2019年度教授会（7月）資料、2021年度総合型選抜入試概要（案）             |   | 5-14 |
|           | 2020年度学部運営会議（6月）資料、2021年度総合型選抜入試概要（案）          |   | 5-15 |
|           | 2020年度推薦入試面接要項【機密3】                            |   | 5-16 |
|           | 2020年度一般入試面接要項【機密3】                            |   | 5-17 |
|           | 平成30年度社会人特別選抜面接要項【機密3】                         |   | 5-18 |
|           | 2019年度教授会（3月）資料、2020年度新潟青陵大学看護学部委員会及び委員会メンバー一覧 |   | 5-19 |
|           | 2019年度教授会（10月）資料、2021入試 総合型選抜（案）               |   | 5-20 |
|           | 大学ウェブサイト（今年度出願状況および過去の入試結果（大学））                | ○ | 5-21 |
|           | 2019年度IR分析依頼書                                  |   | 5-22 |
|           | 入試区分とIRT・PROG・GPAの関係                           |   | 5-23 |
|           | 2019年度教授会（10月）資料、入試区分ごとの学力の3要素に関わる学習成果の分析      |   | 5-24 |
|           | 2019年度教授会（3月）資料、入試区分別学習成果分析(推薦)                |   | 5-25 |
|           | 2019年度教授会（3月）資料、2021年度入試概要（案）                  |   | 5-26 |
|           | 2019年度教授会（3月）資料、2021年度指定校推薦（案）                 |   | 5-27 |
|           | 2019年度教授会（3月）資料、2011-2020指定校推薦実績一覧             |   | 5-28 |
|           | 看護学部PDCAサイクルシート                                |   | 5-29 |
| 6 教員・教員組織 | 看護学部組織表  |   | 6-1  |
|           | 大学ウェブサイト（授業アンケート結果）                            | ○ | 6-2  |
|           | 2019年度第12回評議会資料（4-1.看護学科：卒業生アンケート）             |   | 6-3  |
|           | 新潟青陵大学教員選考に関する規程 規則集 新潟青陵大学 第3編 人事             |   | 6-4  |
|           | 看護学部独自のFD活動                                    |   | 6-5  |
|           | 新任教員FD企画                                       |   | 6-6  |
|           | 看護学部学外講師派遣一覧                                   |   | 6-7  |
|           | 新潟青陵大学・教員評価規程 平成30年度第7回（臨時）評議会議事録              |   | 6-8  |
|           | 新潟青陵大学ティーチング・ポートフォリオ実施規程                       |   | 6-9  |
|           | 2019-2020年度 FDポートフォリオ書式                        |   | 6-10 |
|           | 2020年度第6回看護学部臨時学部運営会議議事録                       |   | 6-11 |
|           | 2019年度学生満足度調査結果                                |   | 6-12 |
|           | 2019年度授業公開・見学実施報告書                             |   | 6-13 |

新潟青陵大学看護学部提出資料（ウェブ）URL一覧

|                                   | 資料の名称                                   | 資料番号  | URL   |
|-----------------------------------|---|---|---|
| 1 理念・目的                           | 看護学部教育目的および目標                           | 1-4   | <a href="http://www.n-seiryu.ac.jp/faculty/nsu/nursing/policy/">http://www.n-seiryu.ac.jp/faculty/nsu/nursing/policy/</a>   |
| 4 教育課程・学習成果                       | 本学ウェブサイト(講義概要(シラバス))                    | 4-14  | <a href="http://www.n-seiryu.ac.jp/about/open_info/syllabus/">http://www.n-seiryu.ac.jp/about/open_info/syllabus/</a>   |
| 5 学生の受け入れ                         | 2021年度学生募集要項デジタルパンフレット                  | 5-1   | <a href="http://www.n-seiryu.ac.jp/digitalpanph/requirement_guideline_nsu_2021/">http://www.n-seiryu.ac.jp/digitalpanph/requirement_guideline_nsu_2021/</a>   |
|                                   | 大学ウェブサイト (【大学】アドミッション・ポリシー)             | 5-2   | <a href="http://www.n-seiryu.ac.jp/exam/nsu_policy/">http://www.n-seiryu.ac.jp/exam/nsu_policy/</a>   |
|                                   | 本学ウェブサイト (デジタルパンフレット CAMPUS GUIDE 2021) | 5-3   | <a href="http://www.n-seiryu.ac.jp/digitalpanph/">http://www.n-seiryu.ac.jp/digitalpanph/</a>   |
|                                   | 大学ウェブサイト (オープンキャンパス)                    | 5-6   | <a href="http://www.n-seiryu.ac.jp/opencampus/nsu/">http://www.n-seiryu.ac.jp/opencampus/nsu/</a>   |
|                                   | 大学ウェブサイト (WEBオープンキャンパス)                 | 5-7   | <a href="https://www.youtube.com/channel/UCsCl71FBlkijY_f8mOoP1Sw">https://www.youtube.com/channel/UCsCl71FBlkijY_f8mOoP1Sw</a>   |
|                                   | 大学ウェブサイト (LINEによる個別相談をはじめます)            | 5-8   | <a href="http://www.n-seiryu.ac.jp/posts/news/2020042710989/">http://www.n-seiryu.ac.jp/posts/news/2020042710989/</a>   |
|                                   | 大学ウェブサイト (高校教員向け『学生募集動画』のご案内)           | 5-9   | <a href="http://www.n-seiryu.ac.jp/posts/news/2020063011855/">http://www.n-seiryu.ac.jp/posts/news/2020063011855/</a>   |
|                                   | 大学ウェブサイト (志望理由書・活動報告書<看護学部>)            | 5-12  | <a href="http://www.n-seiryu.ac.jp/cms/wp-content/themes/seiryu/images/page/exam/nsu_nursing_activity_report_2021.pdf">http://www.n-seiryu.ac.jp/cms/wp-content/themes/seiryu/images/page/exam/nsu_nursing_activity_report_2021.pdf</a> |
|                                   | 大学ウェブサイト (【大学】入試概要)                     | 5-13  | <a href="http://www.n-seiryu.ac.jp/exam/nsu_outline/">http://www.n-seiryu.ac.jp/exam/nsu_outline/</a>   |
| 大学ウェブサイト (今年度出願状況および過去の入試結果 (大学)) | 5-21                                    | <a href="http://www.n-seiryu.ac.jp/exam/nsu_result/">http://www.n-seiryu.ac.jp/exam/nsu_result/</a> |   |
| 6 教員・教員組織                         | 大学ウェブサイト (授業アンケート)                      | 6-2   | <a href="http://www.n-seiryu.ac.jp/about/open_info/questionnaire/">http://www.n-seiryu.ac.jp/about/open_info/questionnaire/</a>   |